

平成23年度 第5回 CCC 体育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成23年12月3日(土) 14:00～16:00

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 : 石塚委員 田附委員

(事務局)井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

(1) 学士力の実現に求められる教育改善モデルについて

事務局より、本日の検討事項について説明がなされた。

1. 各委員会で教育改善モデルを提案したが、理事会でPDCA のサイクルを回すための仕組みが必要だとの指摘があった。それに応え、教育改善モデルを教員が連携して点検・評価・改善してゆくための基準を4～5行で表現して頂きたい。

2. その後、具体的議論に入り、次のような意見が出された。

教育改善モデル (その1)

- ・授業終了後はどのようにセルフマネジメント能力を身に付けていくか。
- ・卒業までに発展的な学びをするためには、どこで評価するのか。
- ・自己管理能力が身に付いたかどうかは、学生主体のデータを点検して、評価する。
- ・評価は、点数でなく、身に付いたか、身に付いていないかではないか。
- ・学習ポートフォリオをデータ化して、授業中の様子(観察)をもとに教員が振り返りをするべきでないか。
- ・この授業は専門科目だが、一般の教養教育としても使えるので、以下の点を編集時に追加していく。
- ・教養教育を専門科目の中の必修にしている。
- ・他学部と交わることにより、自分たちのポジションがわかる。他者との関連付け(コミュニケーション)が取れるようになる。

などとポイントを確認し、最終的にまとめた文案は下記のとおりである。

基礎的な授業では、ポートフォリオ等を通じて運動を通した心身のマネジメント能力が一定程度身に付いたかを評価する。また、発展的な授業では、他者の心身のマネジメントに寄与できるように展開し、その確認をポートフォリオを通じて行う。基礎的な授業と発展的な授業の担当者がそれぞれの授業について振り返りを行い、改善を考えることが望ましい。

教育改善モデル（その2）

- ・スポーツ医学、スポーツ心理学、スポーツ栄養学、スポーツ社会学などの関連分野と連携して評価する。
- ・既に学んだ知識を使ってトレーニング計画を作成し、困ったときには関連分野と連携しながら計画を練りなおす。
- ・トレーニング計画はブログなどから意見を収集して作成し、随時公開して市民に正当性などを啓蒙していく。
- ・常に関連分野の教員に学生の到達度を逆提案して改善策を聞き取る。

などとポイントを確認し、最終的にまとめた文案は下記のとおりである。

スポーツ科学全般にわたる総合的な知識を基に、トレーニング計画の策定と実施を行い、その評価として戦略的思考の達成度をポートフォリオにより確認する。その上で、実践現場の担当教員が学生の到達度情報を、限定したネット上に公開し、改善策を関連分野の教員及び社会における専門家から収集し、授業改善に結びつける。

（2）今後のスケジュールについて

今年度はあと1回で終了とし、次回の委員会は教員の教育力について検討する。

V. 次回の開催日程

日時：平成24年1月31日（火）14：00～16：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室